

✈️ 海外生活 だより

シドニー事務所

英語を通して見る オーストラリア

(一財)自治体国際化協会シドニー事務所所長補佐
芝 紀之(和歌山県派遣)

まずは英語！

シドニーでは237もの言語が話され、3人に1人は家では英語以外の言葉が話すと言われています。(注1) 町に出るとさまざまな文化に出会い、オーストラリアが移民を広く受け入れていることを感じることができます。しかし、バスや電車などの都市基盤がある程度整っているシドニーでは、日本とそれほど変わりなく生活ができるようにも思えます。

2014年4月、そんなシドニーに引っ越して早々に水が出なくなったり、インターネットの工事予約を入れるのに時間を要したりと慌しく妻と二人新しい生活が始まりました。

これからの生活に少し不安を感じる私とは対照的に、英語が話せるようにならないとシドニーについて来た意味がないと張り切る妻は、早々に語学学校に通いだします。最初は民間の語学学校に通っていましたが、現地ですぐ知り合いから「州が運営するTAFEの英語コースは、より実践的な授業をしてくれ、しかも無料で受けている人も多い。今通っている学校より授業料が安くなるかもしれない」と教えてもらい、TAFEに興味を持ちます。

TAFE (Technical and Further Education) とは？

オーストラリアの教育制度は簡単に、小学校入学前に受ける就学前教育、小学校で受ける初等教育、中学、高校で受ける中等教育、そして大学

などで受ける高等教育に分類することができます。また、オーストラリアではVET (Vocational Education and Training) と言われる職業教育訓練についても高等教育の中に位置づけられており、公立機関であるTAFEや民間の職業訓練機関などが提供しています。つまり、TAFEとは州が運営する職業訓練専門学校にあたります。なお、TAFEは全国にあり、それぞれの州などによって運営されています。

オーストラリアの最低賃金は2014年12月現在で時給16.87ドル(注2)、1ドル100円計算で1,687円と労働コストが非常に高く、サービスやものに対する質を高めることが国際社会で競争力を維持し高めるために必要とされています。そのため、VET教育は労働力のスキルアップのため重要な役割を担っており、The Australian Skills Quality Authority (オーストラリア技能質保証機関) という国の機関がVET教育の提供機関を監視し質を保証しています。



TAFEでの授業風景(注3)

TAFEでは会計やマネジメントなどのビジネス分野をはじめ、看護や介護などの保健分野、建築、電気などの工業分野、音楽やデザインなどの芸術分野などさまざまな分野にそれぞれのレベルに応じた多様なコースを提供しているほか、大学進学につながるようなコースもあり、幅広い分野に対応した学校であることがわかります。

授業と教科書

なぜ授業を無料で受けられる人がいるのか理由を知らなかったため、予想以上の授業料に私たちは驚きました。しかし、交渉の仕方、電話での会話、プレゼンテーション、履歴書の書き方や就職面接などの実践的な授業内容に魅力を感じたこととよりローカルな環境で英語を勉強したい思いが強かったため、妻はTAFEに通うことに決めました。

ところが、TAFEに通い始めてすぐクラスで妻一人だけ教科書を持っていないことに気づきます。最初のうちは周りのクラスメイトが前のタームから引き続き通っていたこともあり、近いうちに配付されるのではと思っていました。しかし、1週間経過しても配付されなかったため、先生に相談すると、妻のビザでは教科書を無料で配付することはできないと説明がありました。無料で授業を受けている人がいる中で、なぜ、授業料を払っている妻がさらに教科書代を支払わなければならないのか当時の私たちには疑問が残りました。



妻が通うTAFE

そうだったのか！ オーストラリア

しばらくすると、仲のよい友達もでき、クラスメイトの状況もわかってくる中で、授業料が免除されている方は永住ビザを持っていることに気づきます。ここでようやく私たちは、一定の条件を満たす移民（永住ビザなども含む）に対し、オーストラリア政府が無料で最大510時間の英語教育を提供するAMEP (the Adult Migrant English Program) という制度を知りました。妻が通っていたのは移民向けの英語コースであり、授業も実際の社会ですぐに役立つ内容に重点が置かれていたのは、移民がスムーズに定住できるようにと考えられていたからです。

「寛容の国」オーストラリア

今回、妻の英語学習を通して私たちはオーストラリアの移民に対する政策をより肌で感じる事ができました。多様な言語が話されている国であるとしても公用語は英語です。移民として受け入れた以上、その人が満足に英語を使えなければ、責任を持って支援するという姿勢にオーストラリアの寛容さを垣間見ることができました。

最近、日本でも移民の受け入れについて話題になることが多いですが、まずは、自分だけにではなく、他人にも寛容である人を目指そうと思わせられました。

【参考】

- ・新版『オーストラリア・ニュージーランドの教育 グローバル社会を生き抜く力の育成に向けて』青木麻衣子・佐藤博志 編著 東信堂
- ・The Australian Skills Quality Authority ホームページ
<http://www.asqa.gov.au/about/agency-overview/agency-overview.html>
- ・在日オーストラリア大使館 ホームページ
<http://australia.or.jp/aib/education.php>

(注1) The Sydney Morning Herald (2014年7月12、13日付け)

(注2) The Fair Work Commission ホームページ
https://www.fwc.gov.au/documents/sites/wagereview2014/decisions/c20141_order.pdf

(注3) The Northern Sydney Institute Part of TAFE NSW 提供